

民俗資料館だより

● March 31st, 2020

KAMO CITY MUSEUM OF HISTORY NEWS No. 27

加茂市民俗資料館

館報 第27号

令和2年3月31日発行

編集・発行

加茂市民俗資料館

明治初期戸籍簿からみえる加茂の商人

加茂市文化財調査審議会委員

関 正 平

教育委員会に明治初年の加茂町^{こせきぼ}戸籍簿が保存されている。それ自体、袋とじを裂いて加茂^{かもじま}縞の見本帳に利用されていて、読むには逆さになった文字を鏡に映してみていく。読むと家ごとの商売が分かり、これによりこの時代の本町・仲町の商人68軒がわかる。

まだ明治の始めで、宿場町であった名残で問屋が機能していて本町中ほどに1軒あった。また宿泊施設である旅籠屋は仲町の表通りに面して4軒あった。

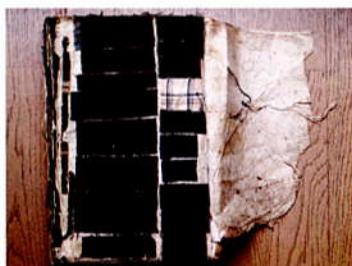
絹地の着物を扱う呉服屋や木綿の着物を扱う^{ふともの}太物商が本町の表通りに6、7軒あったが、服部又七の呉服屋は仲町の表通りに店を構えていた。この時期、京都との取引から町内では呉服屋がもっとあったとみられる。

加茂の名物となっていた加茂紙であるが、これに柿渋を塗って加工する渋紙屋が1軒、紙加工の4軒と少なかった。ほかの町にいたのだろう。渋紙は家庭の上敷^{うわしき}として利用されていた。女性は日本髪、男性は髷^{まげ}の時代であったから、髪結いや髪付が5軒あった。人々が日常的に使っていた商売である。米屋2軒、米小売1軒などあったほかに、酒造屋1軒、酒小売2軒あった。加茂町では明治になると酒造屋が2軒になるが、町民の嗜好^{しこう}を満たしていた。

重工業では鍛冶屋の1軒は本町の表通りであり、鉄物商いも仲町にあった。鍛冶屋は^{いもの}鋳物でなく鍛え物の鍛冶であったろう。また、加茂町の産業の一つであった建具^{さしものや}や指物屋が仲町の土手通りに集住し、合わせて16軒あった。漆の塗り物として仲町表通りに塗物屋があった。上等な建具のなかには漆塗りの^{さん}棧を使ったものがあるが、こ

表 明治初年加茂町戸籍簿の本町・仲町の商人

宿場	旅籠屋	4軒	干物	干物渡世	1軒	
	問屋	1軒		四十物渡世	4軒	
菓子・煙草	菓子屋	4軒	油賃縮・米屋	油賃締め	3軒	
	飴屋	2軒		米賃搗き	2軒	
	煮売渡世	1軒		米屋	2軒	
	煙草屋	10軒		米小売	1軒	
荒物・箸	荒物屋	5軒	酒造屋	酒造屋	1軒	
	箕笊屋	1軒		酒小売	2軒	
	白箸職	2軒		糰商売	1軒	
木挽き・建具大工	木挽き	6軒	綿打渡世	綿打渡世	1軒	
	板木商売	1軒		畳屋商売	2軒	
	指物渡世	6軒		道具渡世	2軒	
	建具職	10軒		瀬戸物小売	1軒	
太物・呉服	下駄商売	2軒	豆腐渡世	豆腐渡世	1軒	
	大工職	11軒		青物商売	1軒	
	太物商売	10軒		桶屋渡世	桶屋渡世	4軒
	太物古手商	1軒			左官渡世	2軒
	古手商売	1軒			花作商売	1軒
	呉服商売	1軒			提灯渡世	1軒
仕立物商売	2軒	茶塩	茶小売		5軒	
縫物職	1軒		塩小売		1軒	
渋紙・蠟燭・筆	船乗渡世	7軒	古金・鍛冶	古金商売	1軒	
	渋紙渡世	1軒		鍛冶職	1軒	
	紙類渡世	4軒	鉄物渡世	鉄物渡世	2軒	
	蠟燭渡世	1軒		草水渡世	1軒	
	蠟燭紙商売	1軒	元結・紺屋	元結商売	1軒	
	筆墨渡世	1軒		染物商売	5軒	
	筆職	1軒		紺屋商売	2軒	
	髪結渡世	3軒		形付商売	1軒	
髪結	髪付渡世	1軒	薬種	針医者	1軒	
	まげ形渡世	1軒		薬種商売	3軒	
傘張	風呂屋	1軒	その他	日料取・日雇	32軒	
	小間物商売	3軒		目明し	1軒	
傘張	傘張渡世	1軒	※明治3年(1870)加茂町			
	傘張	1軒	宗門改帳から作成			



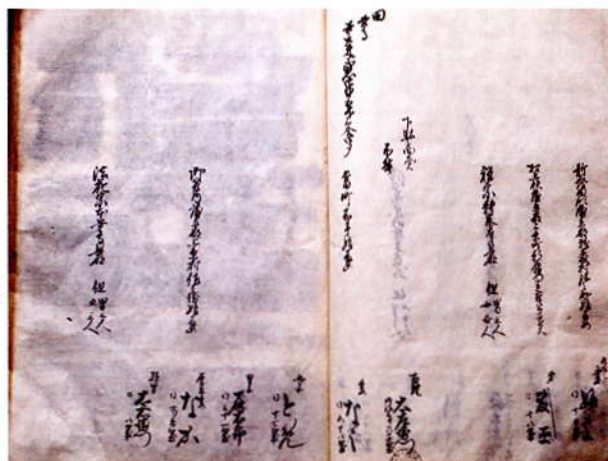
明治3年加茂町戸籍簿

(加茂稿見本帳として利用されている)



筆屋礼助の項

(仲町北側中ほどに居宅があった)



下駄屋太左衛門の項

(仲町下手角に居宅があった)



髪結栄七の項

(仲町谷通り下手に居宅があった)



太物商売・糒商売の項

(仲町の中ほど・本町の中ほどに居宅があった)

の塗物屋はそうした商売をしていたものとみられる。塗師屋とも呼ばれていた。板木の商売もあり本町表通りに石塚松蔵が1軒商っていた。松原に瀬戸物を焼いていた本間栄蔵がいたが、本町表通り小池伝兵衛は町に1軒だけの瀬戸物屋であった。

木綿機がまだ家庭で織られていた頃、木綿を染める紺屋・染物商売が7軒と意外に多かった。なかに仲町土手通りに(石田)友蔵(紺友さん)の染屋があり、同じく服部栄吉も本町土手通りにあって、石田・服部とも水を利用する商売から下江川に沿ってあったのが特徴的であった。

江戸時代後期から目立ってきた薬種屋が3軒あった。なかに大きな薬種屋であった小柳久右衛門は仲町の中ほどに店を構えていた。

船乗り渡世が7軒もいたが、この時期加茂川で川船を使い荷物を扱っていたものだろう。仲町土手通りに集住していた。

下駄商売が2軒あり、なかに仲町角の桑原太右衛門があり、今も続いている。また下駄作りが本町裏手に1軒あった。当時の婚礼・葬式など菓子などを作る菓子屋が4軒あったが、仲町表通りの小林清助の菓子屋は当時からの営業で、ほかに町内に泉田弥五内もあった。ほかに飴屋2軒は仲町・本町の塩屋小路にあった。食品では干物を中

心に商う四十物屋が本町を中心に4軒あった。また現代の八百屋である青物屋が仲町下手の佐藤栄七など3軒あった。茶小売2軒が仲町土手通りに、塩屋小路に1軒あった。煮物を売っていたのか煮売り屋が1軒、仲町角地の桑原四郎治があった。近年まで本町の角地に今井秀太郎がおもちや屋を営んでいたが、この時代は小間物屋としてあり、ほかに町内に小間物屋が3軒あった。布団綿を再生する綿打屋が1軒だけだが仲町土手通りにあった。

屋根に塗って屋根を丈夫にするため、草水油を使うが、これを扱う草水屋が塩屋小路の加茂川側の中ほどにあった。油賃締め屋が3軒、米賃搗き屋が2軒あった。菜種油や玄米を搗くため銭を取って商売していたものだろう。夜間の照明に使う提灯屋が1軒あり、花造り屋が仲町土手通りに1軒あり、現代も続いている。葬儀用の供養花を整えていたものだろう。

この時代、町の治安を預かる目明しがあり、目明しの石附金太郎は本町土手通りの下手にあった。江戸時代の名残がある商売があった半面、木綿機の加茂稿生産など近代工業に向かう元となった染屋・紺屋などがあった。

館外活動

1 社会科出張授業

期日 平成31年4月15日 須田小6年生
平成31年4月25日 七谷小6年生
内容 縄文時代・弥生時代の社会を探ろう



2 映像で振り返る「懐かしの加茂」

期日 1回目 令和元年 8月11日(日)
2回目 令和元年11月29日(金)
時間 午後2時～3時30分(1・2回とも)
会場 加茂市立図書館 視聴覚室
一般参加者 1回目32名 2回目 29名
映写内容

- ①加茂歴史散歩(七谷編)
- ②昔を偲ぶ加茂の風景(本間正氏絵画)
- ③加茂川改修



3 古文書講座

時間 午後7時～8時40分
会場 加茂市公民館 第1研修室

【第1回】

期日 令和元年9月3日(火)
一般参加者26名
講師 長谷川 昭一 氏



(加茂市文化財調査審議会副委員長)

テーマ 寛政9年(1797)10月 「加茂町酒造人より上条村濁酒造停止願ひ」を読む

《講座内容》

新発田藩領時代は、酒造りは加茂町の酒造り人が独占し、上条での酒の小売も加茂から仕入れなければならなかった。寛政元年(1789)の上知によって加茂町・上条村はともに新発田藩領から幕府領となった。それ以来、上条新町で無株の酒造人が現れ、酒の販売を始めた。

加茂町と上条村の市場をめぐる訴訟の発端となる事件であり、自由な商業渡世を求める上条商人とそれを阻もうとする加茂商人との争いの一端に触れた。

【第2回】

期日 令和元年9月10日(火)
一般参加者21名
講師 佐藤 賢次 氏



(加茂市文化財調査審議会委員)

テーマ 「明治2年の市川厚次郎庄屋をめぐる訴訟」

《講座内容》

加茂町庄屋役は、文久元年(1861)に市川正平治が私欲な町政をやっていると批判されて罷免となってから混乱が続いた。その跡は羽生田村庄屋の佐藤伝兵衛と矢代田庄屋の本多蔵之丞の二人が兼帯したが、戊辰戦争時の行いを咎められ、新政府(三条民政局)によって辞めさせられ、町の小林松之丞が立てられた。明治2年(1869)に新政府に多額の献金をした正平治の働きかけで正平治の倅厚次郎も庄屋につけられたことで町は二分して相手側を辞めさせるよう争った。

本史料は町を管轄する三条民政局の見方を記したものであるが、民政局は厚次郎側で運動している者たちは市川家が所有している家屋の店子や小作人に限られ、彼等は市川家の圧力でいやいやながら厚次郎擁護に動いているとみている。

【第3回】

期日 令和元年9月17日(火)

一般参加者25名

講師 高橋 雅弘 氏

(加茂市史編集委員会調査協力員)

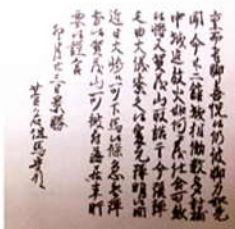
テーマ 「加茂と周辺地域の戦国争乱」

《講座内容》

天正6年(1578)3月、上杉謙信の急死により、後継者が明らかになっていないことから、景虎と景勝の二人の後継者を巡って争いが起きた。

景虎の死により景勝は御館では勝利したが、越後国では抗争が続いていた。天正8年4月、景勝は栃尾、三条に向かう。菅名綱輔へ早急に加茂城を落とし、大崎に向かうよう促す。6月、神余親綱の三条城が落城する。

謙信の死後、3年間にわたる戦いが終わり、景勝は後継者として地位を固めていく。



(菅名文書)

②金泉寺(元狭口)本堂の須弥壇、③貴船神社(石川)、④十二神社(上土倉)、⑤惣銀田稲荷神社(上下条)の5件ある。最古の作例は金泉寺須弥壇と安国庵の文政11年(1828)で、最も時期が下がるのが惣銀田稲荷神社の元治2年(慶応元年1865)である。

【第5回】

期日 令和元年10月1日(火)

一般参加者19名

講師 関 正平 氏

(加茂市文化財調査審議会委員)

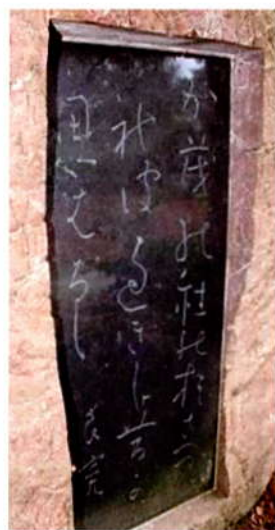
テーマ 「良寛の俗謡十三首」

《講座内容》

良寛の書に「俗謡十三首」がある。図録『ふるさと燦燦に育まれた作家たち展』の収録分を紹介した。

図録によれば「俗謡十三首」の成立は文化2年(1805)か文化3年という。当時、加茂や新潟で謡われていた盆踊り唄の歌詞十三首を良寛が認めたものという。この中に『加茂の社の杉さえへ見れば 過ぎし昔が 思はるゝ』があり、加茂を謡ったものとして有名で、歌碑は加茂山貴船神社脇にある。「良寛俗謡十三首」の「加茂松阪」の部分拡大し、刻印したものである。

講座では文人が好んだ唐様の良寛くずし字を十三首解説した。



(良寛歌碑)

【第4回】

期日 令和元年9月24日(火)

一般参加者20名

講師 中澤 資裕 氏

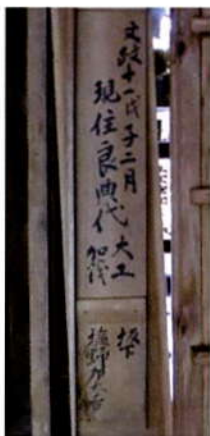
(加茂市教育委員会社会教育課長補佐)

テーマ 「坂ノ下の棟梁 塩野歌吉の事績」

《講座内容》

塩野歌吉は江戸時代後期、加茂町坂ノ下に住む大工の棟梁である。市域の寺社建築関連の史料に名前が残っており、かなり有名な宮大工であった。

歌吉が手掛けたと知られるのは、①安国庵(小貫)、



(金泉寺須弥壇の墨書)

4 歴史講演会

期日 令和元年11月30日(土)

時間 午後2時～3時30分

会場 加茂市公民館 第1研修室

講師 松岡 誠一 先生

(仏像文化財修復工房代表)

テーマ「仏像修復に込めた願い

－加茂市の事例を中心に－

一般参加者 51名

【講座内容】

(1) はじめに

独立して初めての仕事が村松町慈光寺御位牌三基の修復であった。御位牌のそれまで歩んできた歴史を尊重した修復を行った。

(2) 文化財としての仏像修復

仏像の損傷を一つ一つ丹念に修復し、造像当初の姿に近づけることで、仏像のそれまで過ごしてきた歴史を尊重した文化財的な修復を行う。

(3) 西光寺蔵 阿弥陀如来像の修復

(鎌倉時代 13世紀半ば)

「新潟県指定有形文化財」像高113.8cm

① 損傷状況

- 表面の漆塗膜の剥離、剥落があった。
- ほこりにより表面が汚れていた。
- 片目が損傷し、ガラス板が使用されていた。
- 部材が欠失している箇所があった。
- 台座の部材が経年劣化し、不安定であった。



② 修復基本方針

○造像当初を尊重した修復を行い、元々の造形がそのまま残る像として修復を行う。

③ 主な修復作業

○全ての部材を一旦解体し、材を傷めている部分にヒノキ材をあて、掘るなどして損傷を一つ一つ補修した。

○玉眼という技法で目に水晶をはめた。白目をつくることで目力が増す。

○各矧ぎ目と小欠失部分は、^{うるしこくき}漆木屎にて補修した。

④ 修復工程

- 1) 搬出
- 2) 修復前写真撮影
- 3) 表面クリーニング
- 4) 剥落止め
- 5) 解体
- 6) 解体写真
- 7) 玉眼新補
- 8) 組み立て
- 9) 矧目補修
- 10) 小欠失箇所補修
- 11) 新補
- 12) 修復銘札納入
- 13) 下地
- 14) 補彩
- 15) 完成写真
- 16) 報告書作成
- 17) 搬入

(4) 終わりに

地域の中にはまだまだ古い痕跡が残されている。そのためにも地域の文化財がきちんと調査されたなかで保存や活用を考えていく必要がある。「信仰、歴史、文化、人々との思い」というものの時代への『手渡し』それが文化財の修復である。



修復前写真



解体写真



修復前

修復後



玉眼新補



矧目補修

令和元年度の歩み

1 入館者数《平成31年4月～令和2年3月》

	市内	市外	計(人)	団体
大人	260	740	1,000	3
中学生以下	315	109	424	11
計	575	849	1,424	14

2 資料収集の状況

本年度、下記の方から貴重な資料をご寄付頂きました。お礼申し上げ、紹介させていただきます。

〈寄贈(寄託)者名及び寄贈(寄託)品名〉

大塚 徹男 様(加茂市)	歴史資料	699点
石附 克徳 様(加茂市)	歴史資料	63点
七谷小学校 様(加茂市)	歴史資料他	17点
県央歴史研究所(三条市)	考古資料	25点
酒井栄一郎 様(加茂市)	歴史資料	84点
伊藤 司彦 様(加茂市)	考古資料	1点
関根十九司 様(加茂市)	歴史資料	28点

3 レファレンス・サービス及びアンケート調査

① レファレンス・サービス(56件)

(資料館への問い合わせの主なもの)

- 江戸時代の加茂の所領の変遷について教えてほしい。
⇒加茂市歴史年表及び加茂雑記Ⅱ(古川信三著)を参照し回答。
- 資料館に雛田松溪の展示品があるか教えてほしい。
⇒歌と書が展示してあると回答。
- 戊辰戦争における加茂での戦いについて知りたい。
⇒昨年の「歴史講演会」(戊辰戦争150年と加茂)の資料を参考に回答。
- 戊辰戦争時に市川庄屋が庄屋を辞めた理由を知りたい。
⇒『加茂市史』資料編2近世の該当箇所をコピーし、送付。
- 森田千庵の一粒丸の効能について教えてほしい。
⇒加茂の風土記 No.522 をファックスにて送付。
- 加茂城跡について知りたい。
⇒加茂城跡のリーフレットを渡し、場所を教える。
- 長谷にある道しるべのお地藏さまについて教えてほしい。
⇒加茂雑記Ⅱ(古川信三著)をコピーし、郵送。
- 青海神社のお祭りの映像があればみたい。
⇒「青海神社大祭」CDを紹介

② 来館者の声

- 近藤キクさんの和紙人形の作品が素晴らしかった。
- 加茂は歴史ある町であると感じました。
- 貴重な展示を見せていただき、ありがとうございました。
親の世代の暮らしの大変さを思い出しました。
- 加茂川の変遷や新潟方面や上流の長岡方面への水上交通等の資料が見たかった。
- もっとたくさんの方が来るように何かイベントをしたらどうでしょう。親子参観、わたがし・駄菓子まきなど。
- 解説いただき、勉強になりました。

令和2年度の事業予定

1 社会科出張授業

- 対象 小学校6年生～高校生(希望する学校)

2 映像で振り返る「懐かしの加茂」

期日 第1回 令和2年 8月12日(水)
第2回 令和2年11月27日(金)
時間 午後2時～3時30分(1・2回とも)
会場 加茂市立図書館 視聴覚室
内容 絵画「昔を偲ぶ加茂の風景」・映写

3 古文書講座

第1回 9月 1日(火) 講師未定
第2回 9月 8日(火) 講師未定
第3回 9月15日(火) 講師未定
時間 午後7時～8時40分(1～3回とも)
会場 加茂市公民館 第1研修室
内容 未定

4 歴史講演会

日時 令和2年11月の土曜日
時間 午後2時～4時
会場 加茂市公民館 第1研修室
講師 未定

5 特別歴史講演会

期日 未定
会場及び講師 未定

令和元年度遺跡発掘調査について

本年の遺跡調査は、3遺跡を対象とした試掘・確認調査が行われた。いずれも下条地内に存在する遺跡で調査原因は様々であった。



調査遺跡位置図

1 鬼倉遺跡—古代—

調査地 加茂市下条地内
 調査期間 令和元年10月30日
 調査原因 農業用排水路改良工事
 調査の概要 8か所にトレンチを設け、4か所で水田面下約40~60cmのところから平安時代の土器が出土した。遺構は確認できなかったが遺跡の拡がりを確認できた。



鬼倉遺跡 2トレンチ出土遺物

2 花立遺跡—古代—

調査地 加茂市下条地内
 調査期間 令和元年12月16日
 調査原因 道路建設工事
 調査の概要 調査地は丘陵から緩く傾斜した扇状地形のところで、現地表面の標高で約12mである。6か所にトレンチを設けた。すべてのトレンチで現地表面下約30~60cmの地層から奈良・平安時代の土師器・須恵器が出土した。中には墨書土器が1点ある。4・5トレンチでは柱跡や溝なども確認され、古代の集落跡が一带に拡がる可能性が高い。その他の遺物としては、砥石1点と縄文土器1点がある。



花立遺跡 4トレンチ



花立遺跡 4トレンチ出土遺物

3 中沢遺跡—弥生~中世—

調査地 加茂市下条地内
 調査期間 令和元年12月23日
 調査原因 民間開発
 調査の概要 3か所にトレンチを設けた。調査対象地は1m以上の盛土が見られた。水田耕作土の下には腐植物層の堆積が顕著で、遺跡は把握できなかった。周辺一帯は低湿地の環境であったことが推測される。



中沢遺跡 1トレンチ

遺跡探訪

鬼倉遺跡—平安時代の集落—

鬼倉遺跡は新潟県が平成7年に実施した分布調査で発見された。遺跡は下条川中流域右岸の水田部に広範囲にひろがる。平成9年に国道403号線バイパス建設工事に伴い加茂市教育委員会により、約1,870㎡が発掘調査された。

調査区の中央を東西方向に蛇行しながら流れる河川があり、河川の両岸部に掘立柱建物跡が4棟確認された。河川右岸にある建物は2間×3間、平面積約22.4㎡である(写真1)。柱穴は20~30cmと小さく、柱根が見られ樹種はハンノキ属ハンノキ亜属と同定されている。注目される遺構は河川の中に木組みで構築された堰状遺構である(写真2)。堰状遺構は約7×6mの範囲で確認され、2列に配置された横木に直径10cm前後で下端部を尖らせた約50本の丸木杭が打ち込まれていた。水流や水量を調節する機能を目的としたものであろう。その河川から多量の土器が出土した。古いものは4世紀後半頃の古墳時代前期の土器が少量あるが、大半が約1,200年前の9世紀前半で平安時代のものである。須恵器が中心で、底部に文字が記された墨書土器が120点近く出土した(写真3)。読めるもので「古安人」・「是人」などの人名がある。土器以外では、古代の銭貨である和同開珎(初鑄708年)1枚、神功開寶(初鑄765年)2枚、石製の帯飾り1点など、稀少品が出土している。

鬼倉遺跡は沖積低地に位置し、約1,200年前の先人の暮らしを想起しづらいためであろうが、江戸時代の新田開発に先駆けて沖積地を開発したムラがあったことを遺構や出土品は物語っている。(伊藤秀和)

編集後記

明治4・5年当時の本町・仲町の町場を覗くことができました。商売・職業の種類が70種近くあり、多種多様な商家が見受けられます。加茂町の流通を支える商業の中心として発展を続けてきたことがわかります。

最後になりましたが、今回玉稿をお寄せくださいました関正平先生に厚く御礼申し上げます。



写真1 掘立柱建物跡



写真2 河川と堰状遺構(上空から)



写真3 墨書土器(平安時代)

加茂市民俗資料館

- 開館時間 9:00 ~ 17:00
 - 休館日 月曜日、毎月第1,3,5土曜日 祝日、年末年始
- ※ 但し、4,5月は月曜日のみ(祝日に当たるときは次の平日)
- 〒959-1372 新潟県加茂市大字加茂229番地1
TEL / FAX: 0256-52-0089
- E-mail: minzoku@city.kamo.niigata.jp
<http://www.city.niigata.jp/section/minzoku>
- ※創刊号~第26号はWeb上で見られます。